

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211L105	生理学の臨床応用 (Physiology)	専門基礎科目 心身の機構

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	1	後	火・2 水・5	井上 亮・清村紀子・幸松美智子 内線：5051 E-mail:ryo@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

生命現象と恒常性維持のメカニズムを習得し、看護学における事象の生理機能について理解を深める。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 生体における正常な生理機能を理解する	○						
2. 恒常性を維持するための情報伝達機構を理解する	○						
3. 生理学の知識を看護アセスメントに生かす	○						
4. 看護技術の生理学的エビデンスを理解する	○						
5. 小児母性領域の生理学的機能を理解する	○						

【授業の内容】

1	生理学の知識をアセスメントに活かす① (植物性功能)	8	小児母性領域の生理学と看護への応用③
2	生理学の知識をアセスメントに活かす② (動物性功能)	9	小児母性領域の生理学と看護への応用④
3	看護技術の生理学的エビデンス①	10	脳神経領域の生理学
4	看護技術の生理学的エビデンス②	11、12	内科系疾病の生理学
5	看護ケアの生理学的探究	13、14	外科系疾病の生理学
6	小児母性領域の生理学と看護への応用①	15	感覚器疾病の生理学
7	小児母性領域の生理学と看護への応用②		

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	講義内容について、学習記録シートを作成する	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容の理解を深めるため、アウトプット重視とする。 各講義について学習した内容をまとめる 動画や症例を用い、関与する生理機能、病態機能の理解を深める。
B：意見の表現・交換			
C：応用志向	○	各自によるレポート作成	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	・参考書を用いて次回学習内容を一読する(1h)
事後学修	・各講義項目から関連した書物や興味のある書物を読む(1h) ・各講義内容に関する概要をグループ毎に復習し、発表形式にまとめる(2h)

【教科書】

からだが見えるー人体の構造と機能 (2023) メディックメディア
清村紀子他編 (2014)：機能障害からみたからだのメカニズム、医学書院

【参考書】

はじめの一步のイラスト生理学
栄養科学イラストレイテッド

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5
筆記試験	100%	○	○	○	○	○

【注意事項】・Moodle にアップした講義資料・教科書を用いて必ず予習し、主体的・積極的に授業に臨むことを期待する。

【備考】 水曜日5限：先進医療科学科との合同授業 (計8回)

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	井上亮(医師)、清村紀子・幸松美智子(看護師)	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	臨床での経験を活かした生理学講義・アクティブラーニングをおこなう。	
授業形態	対面授業	